

豊田高専広報

第127号

2021.10.25

National Institute of Technology (KOSEN), Toyota College



CONTENTS

- 01 巻頭言
- 02 新しい時代 (Society 5.0 for SDGs) の高専教育
- 03 コロナ禍における学寮の運営と寮の新設・建替
- 04 寮祭2021「晴祭」
- 05 国際交流
- 08 新外国人留学生紹介
- 09 第59回東海地区高専体育大会報告
- 10 高専体育大会 (体験記)
- 11 豊田高専に入学して
- 13 体験入学
- 14 公開講座
- 15 新任教職員紹介
- 17 学生サポート室
- 19 フォトカレンダー





たがわ ともひこ

豊田工業高等専門学校長 田川 智彦

外部評価と学校運営

学校教育法では、高等専門学校は教育研究の質の向上に資するため、自ら点検及び評価を行うとともに文部科学大臣の認証を受けた者による評価(認証評価)を受けなければなりません。本校では、この認証評価に加え、日本技術者教育認定機構による審査、機構監事による監査、本校独自の運営諮問委員会による評価などの外部評価によって、学校運営の点検・評価・改善に取り組んでいます。現在、認証評価の準備が進行中ですが、本稿では昨年度実施された機構による監事監査の結果について紹介させていただきます。

平成28年度は、監査チームが来訪して面談や資料確認などを行いましたが、今回はリモートでの監査でした。2日間にわたり、学校執行部だけでなく、学生や教職員からの聴聞もありました。また、新型コロナウイルス感染拡大にどのように対処したかも監査項目に加えられました。

監査報告書によれば総評として、「校長の適切な学校運営のもとに、学校全体として活気があり、教育、研究、地域貢献、国際交流のすべての面で積極的かつ効果的に活動を行い、着実に豊田工業高等専門学校としての評価を高めている。」との高い評価をいただきました。コロナウイルス対策では、「学生の主体性を尊重して、体育祭と学校祭を学生の実行委員会の指導のもとに実現、成功したことは高く評価される。」とあり、学生諸君の情熱と努力が報われました。総評にはコロナ感染症への対応に加え、内部保障の取り組み、業務の削減・効率化、校長のリーダーシップ等の項目がありいずれも高い評価でした。企業等との共同教育の中では、デジタル×ものづくりカレッジ、夢の新住宅共創プロジェクト、

キャリア支援プログラムが優れた取り組みとして取り上げられました。また、「学生の主体性を尊重し、学生会定例会を実施させ、学校との連携も密にしている。学生会の執行委員もこのようなあり方に満足しており、意欲的な学生活動が行われている。」と、本校の特徴をとらえていただきました。

個別事項についてもおおむね高い評価でしたが、いくつかの「検討推奨事項」も指摘されました。1) コロナ対応の反省点として、遠隔授業時に課題が多くなった点、友人同士のカバーができず、学習意欲に差があらわれた点、入寮制限に伴う不具合、について対応策を検討する。2) 研究活動について、業務の増大による研究時間確保への不安、特定の教員への負担集中、に対策を検討する。3) その他事項として、若手教員の定着、教員採用の難渋、負担増への対応が必要である。などが挙げられています。いずれも簡単には答えの出せない難問ですが、真摯に向き合い、本校の運営に活かすことで教育研究の質の向上につなげたいと考えています。高等教育機関としての本校の使命は、社会の要請に応え、学生諸君が満足できる、豊田高専ならではの質の高い教育研究環境を提供することにあります。一方で、こうしたサービスの持続的な提供には、教職員に過度な負荷がなく、充実した勤務を通して、幸福な人生が設計できる学校の運営が不可欠です。不断の業務見直し、ITによる合理化、外部資源の利用などによる改革を目指したいと考えています。皆様におかれましては、このような本校運営の改革にもご理解を賜り、これまで同様、ご支援・ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

新しい時代(Society 5.0 for SDGs)の高専教育



あんど ひろや
教務主事 情報工学科 教授 安藤 浩哉

今年度から教務主事(教務担当副校長)を務めることになりました。よろしくお願いたします。前年度にもまして新型コロナウイルスの感染状況が気になる日々が続いております。みなさまの心中お察し申し上げます。

豊田高専は、今年の7月中旬から9月初旬にかけて、名古屋大学を含む愛知県内の5つの大学と共同で、学生と教職員の希望者を対象とした新型コロナウイルスのワクチン接種を実施しました。人類が新型コロナウイルスに対抗して驚異的なスピードでワクチン開発・製造をおこなうことができたのは、mRNA技術は勿論ですが、この世にインターネット接続されたICT環境があったからだと思います。そして、人と人が会うことを制限されているコロナ禍において、ICT環境を使って講義や会議を開催したり情報を共有したりすることが頻繁におこなわれています。本校でも、ICT環境を使って遠隔授業(写真1)や電子出席簿による学生の出欠状況の情報共有・確認(写真2)などをおこなっています。

このICT環境に関連して、政府や経団連の提唱する「Society

5.0 for SDGs」があります。これは、図に示すように、人類のこれまでの歴史を「狩猟社会(Society 1.0)→農耕社会(Society 2.0)→工業社会(Society 3.0)→情報社会(Society 4.0)」と考えて、「インターネット上の仮想空間(サイバー空間)と私たちが生活する現実空間(フィジカル空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立させ、次に到来する社会を人間中心の社会(Society 5.0)にする」という、「持続可能な開発目標(SDGs)」を達成するための考え方(国の方針)です。初等中等教育には「Society 5.0」時代に向けたロードマップがあり、小中学校や高等学校の学習指導要領に「情報活用能力の育成」や「ICT環境の整備」などが記載されるようになって、多くの人がICT環境の整った初等中等教育機関で情報活用能力を学ぶ時代が訪れています。そして、高等教育機関である高専や大学には、文系理系の別や学部学科を問わず、それ以上の教育(これまでの人文数理科目に加えて、データサイエンスとAIの素養を身につける教育)が求められています。設立から昭和末期頃までの高専を「Society 3.0 高専」とするならば、インターネット接続された平成初期から今日までの高専が「Society 4.0 高専」、そして現在は、国際的な意味も込めて「Society 5.0 KOSEN for SDGs」の時代を迎えていると考えられるのです。

令和2年度の1学年当たりの学生数は、大学(学部)で約65万6千人。そのうち工学部は約9万6千人。国立大学の工学部に限ると約3万人。その一方で、全国の高専の1学年当たりの学生数は約1万1千人。高専は工学(ものづくり)に関わる分野でとても大きな存在です。私は、社会からの要請である「SDGs」や「Society 5.0」を念頭において、異文化交流や英語多読で国際化を謳う豊田高専(TOYOTA KOSEN)から、異文化を理解し専門分野をもちながらもその枠を越えられる能力や技術を身につけた学生を送り出したいと思っています。



写真1. 遠隔授業(黒板前に広角高解像度カメラ)しなからの対面授業



写真2. タブレット端末等から入力が可能な電子出席簿



図. 人類社会の発展 ~狩猟社会からSociety5.0まで~

コロナ禍における学寮の運営と寮の新設・建替

寮務主事 一般学科教授 かねさか なおひろ 金坂 尚礼

今年度も感染症の状況が大きく改善することはなく、昨年から継続して新型コロナウイルス感染症拡大防止のための「特別運営ルール」のもとで学寮運営を行っています。この特別運営ルールは、関係各機関からの指導や助言、または他高専からお教えいただいた工夫などにに基づき、本校学寮の実状を踏まえて定めたものです。居室に対する使用人数の制限や食堂・浴室の入れ替え制での使用など、特別ルールとして定めたものは、いわゆる3密の回避、公共の場でのマスクの着用、食事の際の配慮など、と基本的な感染症対策に基づいています。その結果、コロナ禍での学寮運営においては、それ以前の豊田高専学寮の特徴であった、600人を超える寮生数、寮生間における学年・学科を超えたコミュニケーションの機会、学寮行事(朝体操や各種イベントなど)といった部分には大きな制約が課せられることとなりました。現在、寮生の皆さんにはコロナ禍以前の学寮生活と比較していろいろな場面で我慢をお願いしています。

一方で、今年度後期からは仮称で国際寮と呼ばれていた新寮が「輝志寮」(きしりょう)の名のもとで運用を開始致します(写真1、2)。その名のとおり、国際交流の場とすることを目的の一つとして新設されました。外国からの留学生のみならず、日本人の学生も入寮してともに生活する混住型の寮になります。「シェアハウス型」と言われる建物の各ユニットにはトイレや洗濯機はもちろんのこと、ミニキッチンやシャワーブースがそれぞれ備えられ、中央の共有スペースの両サイドに6名または7名の寮生が居住する個室が配置されます。部屋を一步出れば同じユニットに住む他の寮生との交流が可能な造りになっています。

また今年に入って、豊田高専で最も古い学寮であった栄志寮の建て替えが決まりました。この文書を書いている7月時点においては3月末からの取り壊しが終わり、既に跡形もない状態です(写真3)。栄志寮の後に建つ新寮は令和4年度

中の運用開始を予定しています。

このように、令和3年度の学寮は、新型コ

ロウイルス感染症の影響、国際寮の運用開始と築50年を超える学寮の建て替えというように、ソフト面とハード面の両方で大きな変化の時を迎えています。そのような状況においても、今年は2年ぶりに寮祭「晴祭」を開催することができました。内容は例年通りとはいかず、また当初予定していた2日から1日へ日程と規模を縮小しましたが、寮祭実行委員の感染症対策を考慮した創意工夫と、昨年経験できなかった不足分を側面から支える上級学生の協力によって無事に実施致しました(写真4)。7月には、指導的立場にある寮生が保健室と協力してビデオを作成し、新型コロナウイルス感染症とそ

の対策への理解を深めるための活動を行いました(写真5)。ともに豊田高専の学生達の持つ力に改めて

目を見張る機会となりました。時代に合わせた変化を求められるのはやむを得ないことと思いますが、寮生の自主・自律の精神をモットーとした豊田高専学寮の文化についてはこれからも大切にしたいと考えています。



写真1: 輝志寮(外観)



写真2: 輝志寮(共有スペース)



写真3: 旧栄志寮跡地



写真4: 寮祭

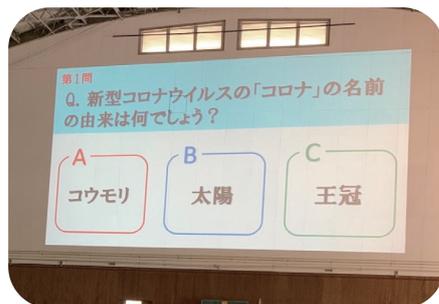


写真5: 感染症対策

寮祭2021 『晴祭』



建築学科 4年 いしづか たいき 石塚 大暉

今年のテーマは「晴祭」でした。コロナ禍での開催であるため、1日
のみの開催となりましたが、思い出に残る1日となりました。今年は
通生の人は参加することができなかったことは、残念でしたが、来年
以降は実行委員としてぜひ寮祭に参加してもらえたら嬉しいです。

晴祭ハイライト!

寮祭のメインイベントである「ドミトリー大賞」が、午前中に開
催され、大盛況でした。感染症対策のため、例年とは異なる動画
での開催となりました。各フロアごとで、ストーリーやダンスをおり
まぜた動画を作成してもらいました。どの作品も素晴らしいもの
ばかりで、各フロアの「らしさ」がはっきりと伝わりました。また
マウスガードを使用したので、普段マスクをしていて見ることで
できないみんなの笑顔がしっかりと動画に詰まっていた。ファイ
ヤーパートは、今年は電飾を使ってトーチワークを行いました。短
期間しか練習できなかったのですが、美しいパフォーマンスでした。
午後は、ステージ上でのイベントを行いました。ステージパートが、
かわいいデザインでかつ安全なステージを作り上げてくれました。
感染症対策を行いながら楽しめるイベントをイベントパートの子
たちが企画してくれました。

コロナ禍で寮祭を行う意味

コロナ禍で寮祭を開催しても良いのだろうか。今回、私たちは、
準備しながら、そして寮祭中さえも何度もこの疑問が頭に浮かび
ました。けれども、結果的には、開催して本当によかったなと思
いました。ここで2点ほど、寮祭をコロナ禍で行う意味について述
べておきたいと思います。

1つ目は、「たくさんの友達ができる」ことです。他学科の子や、
先輩や後輩とパートを通じて関わります。普段では関わらない人
と出会うきっかけになることが寮祭の良さだと思います。私も今
回の寮祭を通じて、多くの後輩と仲良くなれました。また、先輩や
同学年の友達からもたくさんの差し入れやエールをもらい、人の
温かさを実感しました。

2つ目は、「主体的に取り組む力が身につく」ことです。寮祭は、
企画・運営を学生主体で行います。そのため、自ら自分のやるべき
ことを探し出し、行動に移す力が育まれます。今年は特にコロナ
の影響で、多くのイベントが例年通りの開催ができませんでした。
しかし、各パートがコロナ禍でも新しく挑戦できることを探し出
し、実行してくれたことにより、例年に負けないうらい盛り上がり
ました。また、3か月間準備を行ってきた寮内から感染者が1人も
出なかったことは、みなさんの感染症への対策意識が高かったお
かげだと思います。

最後に伝えたいこと

私は今年度の寮祭を無事に開催することができて本当に良
かったと思います。コロナ禍で開催するにあたり、寮担当の先生
方や寮務係の方々にサポートをしていただきました。パートリー
ダーのみんなはやる気のある子ばかりで、急な対応にも臨機応変
に動いてくれました。たったの3か月という短い期間の中で成長
し、頼りない私を支えてくれて感謝しています。3年生は、寮祭の
経験が少ないのにも関わらず、率先して後輩を引っ張ってくれて
頼りになりました。1、2年生のみんなは、来年先輩としてより良
い寮祭を作り上げ、伝統を受け継いでください。このメッセージ
を通じて、寮祭が多くの人の支えによって開催されていたことを
みなさんに知ってもらい、来年はぜひ支える側に立って寮祭を盛
り上げてほしいです。

来年の寮祭では、通学生や学校外の方々も招待し、多くの人に
楽しんでもらえる寮祭が開催されることを願っています。



グローバルエンジニアリング育成事業の進展

国際的に活躍できる技術者の卵を育成すべく、本校では長年、AFS、YFUの長期留学(10ヶ月)を推奨し、本科1~2年次では英語多読授業を展開してきました。これらの活動を融合させ、ステップアップさせる事業として**英語を「使う」ことで育てる学生のグローバルマインド**(令和元~5年度)を展開しています。この事業では、多くの学生が自ら英語を使う機会を作るため、3年次の全学科共通科目「科学英語基礎I」をAll Englishの授業に転換し、1~2年次の多読授業におけるインプットをベースにアウトプットを意識した活動につなげています。また、短期受入プログラムでキャンパス内の国際交流を拡大し、英語を使う課外活動も充実させました。

国際交流センター長 にしざわ ひとし
電気・電子システム工学科 教授 **西澤 一**

事業の中間年となる今年度、「科学英語基礎I」を受講した4年生のTOEIC平均点(6月に全員受験)が456点となり、同年代の大学生の1年生全国平均(2020年度487点)に追っています。留学経験者が49名に増えたことも大きな要因ですが、留学未経験者も91名が400点以上を取得しており、学生全体の英語力が底上げされていると考えています。創立以来「高専生は英語が苦手」と言われ続け、卒業生からも改善を求められた状況を、ようやく克服できたのではないのでしょうか？
令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため対面での国際交流活動が行えない状況の中、遠隔授業のしくみを活用した取り組みも積み上げてきましたので、ご紹介します。

「科学英語基礎I」におけるAll Englishの授業

多くの学生はこれまで英文法を学び、英文を和訳して理解することで英語を学んできましたが、3年生の「科学英語基礎I」では、その英語の基礎知識を前提に、自分の考えを表現し、コミュニケーションをとるために英語を使う練習をしています。この授業では、学生が1年次に学んだ物理や化学の内容を復習しながら、これらの分野で使われる英語の専門用語や表現を学ぶとともに、簡単な実



制作プロジェクト

国際交流センター 専任講師 **レジーナ・サルマサン**

験や制作プロジェクトを通して、問題を解いたり、クラス内でディスカッションしたり、プレゼンテーションをしたりするときに、英語を使うよう促されます。



授業の様子

海外長期留学

令和元年度にAFS、YFUによる海外長期留学に出発した学生41名は、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大のため令和2年度新学期開始直後に帰国せざるを得ない状況となりました。また、令和2年度に出発予定であった学生41名においては、2名がチェコとエストニアに留学、29名が中止あるいは辞退、10名が次年度に延期となりました。したがって、今年度留

機械工学科 准教授 こたに あきら
小谷 明

学予定の学生37名の中には4年生で留学する学生4名が含まれています。留学できなかった学生にとっては非常に残念ですが、受入国の状況や学生の安全を考えるとやむを得ない状況であったと思います。一日も早くコロナ感染症が世界的に落ち着き、安心して留学に出かけられる状況になることを祈っています。

人との出会いと自然

私のホストファミリーはとてもアクティブで社交的です。冬になり雪が降り始めると、山にあるchata(ハタ)というセカンドハウスのようなところで親戚と集まり、1週間ソリやクロスカントリースキーなどのいくつかのウィンタースポーツを楽しみます。

春になり雪が溶け始めると、chataに集まった友達とその



Albeř で出会った人の卒業パーティー



はじめてのクロスカントリースキー

家族ら約16人で、1週間毎日いくつかの異なる山にハイキングに行ったり日焼けを楽しんだりします。蒸し暑くなる前の春と夏の間には、チェコ各地から集まった約150人の人達とAlbeřという山の中にある運動施設のようなところで1週間毎日様々なスポーツを楽しみます。この約150人は全員がホストファミリーの友達というわけではなく、友達の友達のそのまた友達だったりします。

夏になり暑さが厳しくなってくると、春と同じメンバーに新しく4人を加えて川に行き、カヌーやキャンプを楽しみました。

このようにして自然を通して交友関係を広げたり深めたりするやり方は自然が大好きなチェコ人らしく、日本にはあまりないやり方で面白いなと思いました。



春の山にハイキング

オンラインで一緒に考えるSDGs:国際交流ビデオコンテスト

一般学科 准教授 市川 裕理

昨年度初めて実施した国際交流ビデオコンテスト(第1回・第2回)には、豊田市内高校生・海外学生合わせて、のべ74名の参加がありました。これは、海外の学生とペアになり、Teamsなどを使って共同でSDGsについてのビデオを制作するというプロジェクトです。優勝ペアの海外学生は、3月に本校で行う短期研修に招待します。英語でのやりとりは、少し

難しいときもありますが、海外の学生と一緒にコミュニケーション能力向上を目指し、SDGsについて理解を深めるきっかけにしたいだけだと思います。



第2回コンテストオンライン表彰式

英語で話そう!パワーランチ

「英語で話す機会が欲しい」という留学帰りの学生のリクエストから始まった、週1回有志が集まるパワーランチも5年目となりました。今年度は単位申請できることもあり、低学年の参加が増え、にぎやかなミーティングになっています。先輩からの質問を待っているだけでなく、自分からどんどん話題

を提供し、場を盛り上げるような積極性も磨いてほしいと思います。語学学習はTry & Errorの連続です!



パワーランチの様子(CALL教室にて)

イブニングセミナー

留学経験のない学生にも英語で話す機会を提供しているのが、課外活動として実施しているイブニングセミナーです。遠隔授業のしくみを使うことで、シャドウイング指導で人気が高い関東在住の酒井邦秀先生に指導を受けることが可能

になりました。令和2年度から春期と秋期に各10回、毎週2回のセミナーを継続しています。



Teamsを使った遠隔シャドウイング指導

TJ-SSF(日タイ高校生サイエンスフェア)2020参加報告

一般学科 講師 ^{えぐち けいこ} 江口 啓子
 情報工学科 准教授 ^{つづき けいた} 都築 啓太

2021年2月24日(水)、25日(木)にTJ-SSF(Thailand-Japan Student Science Fair)2020がオンラインで開催されました。TJ-SSFでは日タイの高校生や高専生が数学、物理、化学、生物、コンピュータの5つの分野のいずれかを研究テーマとしてエントリーし、英語で発表を行います。豊田高専から出場した学生と研究テーマは以下の通りです。

“Strongest farmer!”(コンピュータ分野)
 石井花珠さん(情報工学科3年)、加藤優芽さん(情報工学科3年)
 “Concrete Carbonation and Our Lives”(化学分野)
 羽根萌恵さん(環境都市工学科4年)、藤井花帆さん(環境都市工学科4年)

羽根さん、藤井さんペアの研究は代表プレゼンに選ばれ、タイのシリントーン王女の前で発表を行いました。

初のオンライン開催ということで事前に何度もリハーサルが行われました。そのおかげで特にトラブルもなくスムーズに運営がなされました。また、オンラインであっても楽しめるように内容がよく工夫されており、研究発表以外のサイエンスアクティビティやオープニング、クロージングセレモニーでも参加した学生たちは楽しんでいました。貴重な経験になったと思います。



代表ポスター発表の様子



代表プレゼン中



サイエンスアクティビティ

コロナ禍の留学生受け入れと交流

環境都市工学科 准教授 ^{まつもと よしたか} 松本 嘉孝, 講師 ^{おおはた たくや} 大畑 卓也

令和3年度は前年度に引き続き留学生にとって大変困難なスタートになりました。4名の留学生が新たに第3学年に入学でしたが、新型コロナウイルス感染症のため3名が入国できず、入学式に参加できない状況でした。1名の機械工学科へ入学した学生は、昨年夏にカンボジアより入国し、約半年間の日本語教育を経て、3月下旬に本校の学生寮に入寮しました。モンゴルからの男子留学生(情報工学科、建築学科)2名とマレーシアからの女子留学生(情報工学科)1名は、Microsoft Teamsを利用して遠隔授業を行なっています。教室にパソコン、黒板を撮影するためのビデオカメラ、教員の声がひろえるようにマイクを設置し、ライブで授業を配信しています。もちろん、海外にいる留学生が質問することも可能なシステムになっています。ただし、教科書は書籍形態であるため、先方へ送る必要がありそちらの対応に苦労がありました。

そのモンゴルからの留学生2名は、5月26日に入国し、精神的に厳しい2週間の隔離滞在中を経て、6月10日に本校に到着しました。マレーシアからの留学生は、未だ入国の目処が立っていないため(2021年6月30日現在)、遠隔授業を継続しています。日本語がままならない留学生にとっての遠隔授業は大変ストレスが溜まるものであると容易に想像ができます。そんな留学生の対応をしてくれるのが日本人チューター学生です。彼・彼女らは、対面したことのない留学生に、丁寧かつ確実に授業内容をサポートしてくれており、留学生の心の拠り所となると共に、我々教職員からも絶大な信頼と感謝を受けています。コロナ禍でニューノーマルな生活が取り沙汰されていますが、まだ入国できていないマレーシアの学生にも「留学」というオンラインでは到底不可能な異国での生活、言語を超えた友達づくり、不安と期待が入り混じる生活が一刻も早くでき

るように祈るばかりです。

今年度の留学生の構成は、5年生5名(マレーシア、モンゴル)、4年生3名、(モンゴル)、3年生4名(カンボジア、マレーシア、モンゴル)の合計12名となっています。ほぼ毎月1回、外国人留学生懇談会を開催しており、そこで情報共有などを行っています。その懇談会の中では、3年生の学生に、母国での学校生活、母国の自然や食べ物などを話す機会を予定します。懇談会にはチューターも参加しているため、日本にいながら国際文化的な機会に触れられます。

最後に少し普段の留学生の様子についてお知らせします。留学生は全員寮で生活しており、パソコンを使って勉強をしたり母国の友達と連絡を取っています。食事も自分たちで行うことが多く、マレーシアからの留学生はスパイスの効いたパンチのある料理を良く作っています。モンゴルからの留学生は肉料理が好きなようです。日本人学生とも普段から交流が盛んで、イベントに参加したり、スポーツを一緒にしたりして楽しんで生活しています。



モンゴルでの遠隔授業の様子



寮生活の様子(勉強)



寮生活の様子(料理)



マレーシアでの遠隔授業の様子



母国紹介の様子



寮生活の様子(焼き芋体験)

新外国人留学生紹介

よろしくお願いします

機械工学科 3年
キム ヘン
KIM HENG



こんにちは、機械工学科の3年生のキムです。カンボジアから来ました。日本語を1年間ぐらい勉強しています。私は日本に住みながら日本語を勉強したり、和風の色々なことと文化を経験したりすることは珍しいと思っています。同時に、母国と違う異文化や異言語や習慣などのチャレンジはめちゃくちゃ大変です。それでも、このきっかけを貰ってありがたいです。いろいろ難しいし、大変といえども、それらは自分が成長するためだと思えます。

私は高専へ来る前に、東京で半年間日本語の学校で過ごしました。そこで、色々な国から来た留学生に会えて、仲良くできました。それに、留学生としては日本での生活はすごく良いし、景色も綺麗だし、環境も健康だし、大好きです。

それに対して、高専へ来て初めは、全く違う環境に生活を送っていました。母国と全く違う校風に慣れたり、日本語で授業を受けたり、寮に日本人と生活を送って日本の習慣を段々学んだりすることなどの活動はいつにもまして忙しく、大変ですけれども楽しいと思います。

入学してから今まで、3ヶ月が経ちました。その間に、いろいろ友達を作れて、もっと慣れていくようになりました。また、先生方のお導きのことで、チューターと同志の留学生のおかげで、私は色々なことを学びました。

これから3年間お世話になりますので、どうぞよろしくお願いします。

「これまで」と「これから」

情報工学科 3年
ムンフバト エルデネオチル
MUNKHBAT ERDENE-OCHIR



こんにちは。情報工学科3年生のオギです。モンゴルから来ました。今年の4月からみんなと一緒に対面授業を受ける予定でしたが、新型コロナウイルスにより、日本に来るのが少し遅くなりました。遠隔授業を受けていたとき、「いつ日本に行けるのだろう」、「いつみんなと会えるようになるのだろう」といった悩み事が頭に溢れてきていた私ですが、先生や先輩、そして家族のおかげでここまで来られました。

そして、ようやく憧れの日本に来ることができ、日本での生活が始まりました。日本はモンゴルにいた時と全く違う雰囲気になっていました。レジ係のいないレジをはじめ、色々な進んだ技術に大変驚きました。ゴミ出しにも気をつけないといけなくなって、困ることが多くありましたが、みんなの優しさや支えのもとに、日本の生活にもずいぶん慣れてきました。

これから色々なことに挑戦して、日本の文化についても深く理解し、様々な経験を積んでいこうと思っています。アニメ鑑賞を趣味にしている私にとって、行きたい場所、試したいこと、参加したいイベントなどがたくさんあります。また、部活に入って仲間ができた、みんなと一緒に色々な活動に参加する日々を楽しみにしています。

これから豊田高専で皆さんに色々とお世話になりますので、よろしくお願いします。

「楽しい思い出を作しましょう」

情報工学科 3年
ベギ ミラ アナク ポール マラン
PEGGY MIRA ANAK PAUL MARAN



こんにちは。私は情報工学科3年生のミラです。マレーシアのINTEC Education Collegeで一年半ほど日本語を勉強しました。4月に入国する予定でしたが、新型コロナウイルスのパンデミックの影響により、マレーシアで遠隔授業を受けています。一人で勉強するのは大変ですが、先生方とチューターにいつも手伝っていただき、とても感謝しています。遠隔授業で学習するには、自己規律が必要です。授業中に疲れないように、体調を整えて、十分な休息をとる必要があります。日本語の授業は大変ですが頑張っています。

早く日本に行き、みんなと仲良くなりたいです。日本でやりたいことがたくさんあります。特に旅行に行ったり、様々な日本食を食べてみたいです。一番行きたい所は東京ディズニーランドです。そこで友達と一緒に時間を過ごしたいです。マレーシアにはたくさんの日本食レストランがあります。その中には、お寿司、うどん、たこ焼きのレストランがあります。たこ焼きは私の大好物です。私はアニメが好きなので日本でアニメグッズも買いたと思っています。とくにブラックローパーは私のお気に入りのアニメの1つです。高校では日本文化を学びました。茶道や盆踊りをしたこともあります。もっと日本文化を学びたいと思っています。

日本でみんなと会えることを楽しみにしています。これからお世話になります。よろしくお願いします。

新しい人生の扉を開けよう

建築学科 3年
トゥグスバヤル ガンホヤグ
TUGSBAYAR GANKHUYAG



こんにちは。建築学科3年生のガナです。モンゴルで1年半、日本の高専に入学するため、先生や友達と協力して準備したお陰で、2021年の4月から豊田高専に入学することになりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で日本に入国できず、2ヶ月間は遠隔授業になってしまいました。5月末に日本に入国し、やっと6月中旬に豊田高専で対面授業を受けることができました。

母国から憧れの国だった日本に来ました。全てのことが思ったのと違って、困ったこともたくさんありましたが、優しいチューターや先生達のおかげで簡単に解決できました。日本の異文化や優れた技術には時々困りましたが、時間が経つにつれて慣れてきて、人生が良い方向に進んでいるように思います。日本での生活はチャレンジすることが好きな僕にとって最高の機会になっています。

これから作る3年間の新しい人生は、50年経っても記憶に永遠と残り続ける思い出とするために、全てを出し切る気持ちで一生懸命頑張ります。これから、日本人の友達をたくさん作って、勉強を真面目にして、色々な所を旅して、新しい事に積極的にチャレンジしていきます。

人生では辛いことや困難に度々直面しますが、それを乗り越えてより楽しみに満ちた生活を自分の手で作りだしていきます。皆様も新しい人生への扉をその手で開けましょう。これからよろしくお願いします。読んでいただきありがとうございます。

第59回東海地区国立高等専門学校体育大会

| | | | |
|--------|--|-------------------------------|----------------------------------|
| 陸上競技 | 男子 女子 | 第3位 第3位 | |
| テニス | 男子団体 | 第2位 | |
| バドミントン | 男子個人ダブルス 女子個人シングルス | 第3位 第3位 | 久野 樹・鈴木 優生 山野ななみ |
| ソフトテニス | 男子団体 女子団体 女子個人ダブルス | 第2位 第2位 優勝 | 松井 美桜・高山ひまり |
| 空手道 | 団体 形 | 第3位 | |
| サッカー | | 第3位 | |
| 柔道 | 団体全国予選 男子個人81kg級 男子個人無差別級 女子個人52kg級 女子個人無差別級 | 第2位 第2位 優勝 優勝 第2位 | 杉本 潤哉 鈴木 信吾 小池 沙弥 磯部 朱梨 |
| バレーボール | 男子 | 第3位 | |
| 硬式野球 | | 第3位 | |
| 剣道 | 男子団体勝抜 女子個人 | 第3位 第3位 | 稲垣 志穂 |
| ハンドボール | | 優勝 | |
| 卓球 | 男子団体 男子個人ダブルス 男子個人シングルス // | 優勝 第3位 第3位 第3位 | 柴山 尚輝・角谷 俊輔 柴山 尚輝 角谷 俊輔 |

| | | | |
|----------|--|------------------------------------|-----------------------------------|
| 水泳 | 総合 男子総合 女子総合 | 優勝 優勝 第2位 | |
| バスケットボール | 男子 女子 | 優勝 第2位 | |
| 弓道 | 団体 男子団体全国予選 男子個人全国予選 // 女子団体全国予選 女子個人全国予選 | 優勝 優勝 第2位 第3位 優勝 優勝 | 豊田高専 A 高橋 敬多 岩田宗市郎 加納 月歌 |

陸上競技、水泳競技種目別優勝者及び全国大会出場者

| | | | |
|----|---|---|--|
| 陸上 | 男子400m 男子 棒高跳 女子200m 女子100mH 女子4×100mリレー | 第1位 第1位 第3位 第1位 第1位 | 柴田 篤弥 藏地 唯斗 津曲 香奈 富田こまち 富田こまち・亀高 暖 鈴木里緒菜・津曲 香奈 |
| 水泳 | 男子800m自由形 男子200m平泳ぎ 男子200m背泳ぎ 男子200mバタフライ 男子400mメドレーリレー 男子100m平泳ぎ 男子100m背泳ぎ 男子100mバタフライ 男子400mフリーリレー 女子100m平泳ぎ 女子200mフリーリレー | 第1位 第1位 第1位 第1位 第1位 第1位 第1位 第1位 第1位 第1位 第1位 | 木村 亮仁 佐藤 流生 神谷 泰佑 赤木 秀征 神谷 泰佑・佐藤 流生 赤木 秀征・大野 健詞 佐藤 流生 神谷 泰佑 赤木 秀征 赤木 秀征・佐藤 流生 大野 健詞・神谷 泰佑 吉川 雲母 小野田 櫻・竹村 真希 大内 梨聖・吉川 雲母 |

第59回東海地区高専体育大会報告

学生主事 一般学科 教授 **高津 浩彰**

みなさんこんにちは、4月から学生主事を承りました一般学科高津です。今回の広報では、令和3年度東海地区高専体育大会について報告します。昨年度はコロナ感染が広がり、緊急事態宣言が発出され前期はオンライン授業を実施しました。その影響でコロナ感染症に有効な対応方法が定まらず、また収束時期も見通せないまま高専体育大会は全国大会、地区大会ともに夏の大会が中止になりました。参加や応援を楽しみにしていた学生、教職員、保護者のみなさんにとってとても残念なことだと思います。令和3年度については準備を入念に進め、感染対策をすることによって全競技、全チームとは言えませんが開催することができました。大会運営にご尽力いただいた教職員、オフィシャル並びに検温消毒などの感染予防対策に協力していただいた選手の皆さんに感謝申し上げます。

さて、豊田高専の結果について目立った成績と実施方法について4つ報告します。

1つ目は、柔道競技について報告します。例年では岐阜高専の指定席であった個人戦の優勝です。柔道競技男子無差別級において個人戦で5M鈴木君が優勝し全国大会の切符を得ることができました。柔道部員が5年間練習に励んできた結果を出すことができ、優勝した鈴木君はもとより柔道部に所属する部員に自信を与えることになりました。優勝も視野に入れて練習に励んでおり、開催が延期になり11月に行われます全国高専体育大会でのさらなる活躍が期待されます。



試合前整列をする豊田高専男子選手

2つ目は、男子バスケットボール部も全国高専大会に出場することになりました。練習熱心なキャプテンのもと上級生がチームを引っ張り、実力のある選手も多く今回の結果に辿り着きました。こちらも全国高専大会優勝が期待されます。

3つ目は、開催方法が特徴ある競技として、オンラインを利用しリモートにおける弓道競技が行われました。高専らしいといえばその通りですが一工夫した大会の実施方法で今後様々な高専学生の大会で利用されていくと思います。全国大会の射的も既に済ませ全国の結果待ちという状態です。

4つ目は、バレーボール競技の東海北陸地区合同開催について報告します。東海地区と北陸地区の長年の懸案事項であった合同開催ですが、「できる競技から」という話し合いのもと、記念すべき第1回東海北陸地区高専体育大会バレーボール競技を豊田高専が主催となり開催することができました。辞退するチームもあり東海北陸のすべての高専が参加することはできませんでしたが、大会の合同開催は一歩進んだ東海北陸の高専体育大会の実施に繋がりました。結果は、鈴鹿高専が男子、女子ともに優勝でしたが女子決勝戦での富山高専射水キャンパスの奮闘は来年の北陸開催での活躍を予想できるものでした。今回の反省を生かしより良い大会が実施されることでしょう。

以上が令和3年度東海地区高専体育大会の報告になります。コロナ感染が完全に収束しないまま、まだまだ安心できない毎日ですが、学生生活で人間育成に大切なクラブ活動の支援を今後も継続していきたいと思っております。学生の育成に関わるみなさまのご指導あっての人間力育成になります。ご協力の程よろしく申し上げます。



東海北陸地区高専体育大会表彰式 (バレーボール)

高専体育大会 体験記

最後の高専大会

電気・電子システム工学科 5年

たけむら もとき
竹村 基希

男子バスケットボール部は7月に三重県伊勢市で行われた東海地区高専体育大会に出場しました。今回の地区大会は例年のリーグ方式とは異なりトーナメント方式での開催でした。結果は決勝戦で鈴鹿高専に56-55で勝利し5年ぶりに優勝しました。前回の地区大会では1点差で鈴鹿高専に負けてしまい全国大会に出場することができませんでした。前回の敗戦を糧に全国大会出場を目指して厳しい練習を乗り越えてきました。その結果、優勝することが

でき言葉にできないほどの嬉しさを感じました。現在は全国大会優勝を目標にチーム一丸となって練習に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染状況が厳しい中、学生が安全に部活動を行えるようにご尽力されている保護者、先生、大会関係者の皆様に対する感謝の気持ちを持ち最後まで部活動に励んでいきたいと思えます。



5回目の高専大会

機械工学科 5年

すずき しんご
鈴木 信吾

柔道部は、これまで部員不足に悩まされてきましたが、今年は部長を中心に声かけをするなど柔道部の良さをアピールした結果、部員が徐々に増えていきました。そのおかげで、部が盛り上がり、練習に熱中できました。この良い流れで大会に臨みました。

東海地区大会で団体戦では2位、個人戦では無差別級で初めて優勝し、全国大会への出場権を得ました。この地区大会は私にとって高専最後の大会でしたので楽しもうという思いでした。試合中は柔道を楽しみ、仲間の試合中は応援をして盛り上げました。試合が終われば仲間と笑いあったり、他校の学生と話をしたりと試合以外のことでも楽しむことができ、よい大会でした。

このように楽しむことができたのも、先生方、コーチ、部の仲間、大会運営の方々のおかげです。コロナ禍という例年にない状況下でしたがありがとうございました。全国大会が開催されることを願い、これからも練習に励んでいきます。



豊田高専に入学して

～ロボコンで輝かしい未来を～

ロボコンは、豊田高専の大きな魅力の一つであります。僕はそのロボコンに憧れて豊田高専への入学を決めました。

中学1年の折、高専のロボコンを見学していた際に僕の目に映った、自分の脇下ほどあろうかという大きさのロボットが機敏に、精密に、ダイナミックに動く様子は、僕に大きな刺激を与えました。加えて、そのロボットはほとんど学生だけで作り抜いたと聞き、感銘を受け、自分もそのような技術力を得たいと思いました。

実際に高専に入学し、いざロボコン部に入ってみると、やはり今まで経験したものとは格の違う作業が行われていて、再び驚かされました。また、豊田高専ロボコンのいい所は技術力だけではありません。ロボコンでは、チーム特有のアイデアを求められます。特に近年、新型コロナウイルスの流行によって現地で大会を行うことが困難なこともあり、大会内容がエン

しんかわ たろう 機械工学科 1年 新川 太郎

ターテイメントチックなものとなり、以前よりも高いアイデア性が求められるようになりました。今年のロボコンのアイデア出しでは、沢山の面白いアイデアが出されました。アイデア出しで自分のアイデアを説明したり、先輩方のアイデアを聞いて討論することで、想像力が豊かになったり、ロボットの機構やロボコンで大切にすべきことを学ぶことができます。

ロボコンに入ってまだ2ヶ月ほどしか経っていませんが、先輩方の丁寧な指導によって、自身の成長を感じています。ロボコンは、技術力だけでなく、アイデア力、コミュニケーション能力など、社会に必要な様々な力を付けるのにつけてです。これを読んだあなたも、この機会にロボコン活動をしてみませんか。



その距離1000キロ

私は今、親元から約1000キロ離れた豊田高専で寮生活をしています。遠く離れた北の大地から愛知の地に移って寮生活を送ることには大きな不安がありました。高専で寮生活をしている人達はどんな人なんだろうという不安もありました。しかし、そんな不安は無用のものであったことをこの2ヶ月の寮生活で私は実感しています。

私の不安を取り払う中で大きな役割を果たしたのは仲間の存在です。わからないことを教え合う、じっくり一緒に考える、同じ志を持った多くの同級生達の存在は私にとって大きなものです。また、尊敬する先輩方が近くにいるということも私にとっては大切なことでした。多くの先輩方と関わることができている学寮の環境は私という人間を一回りも二回りも大きくさせてくれるものだと思います。このように、私はたくさんの同級生や先輩方からたくさんの刺激をもらって日々生活しています。

やしき りく 電気・電子システム工学科 1年 谷敷 怜空

また、自由な時間が増えるということも寮生活の利点かもしれません。ある同級生は入寮してから料理に目覚め、いかに安く、美味しく料理を作るかということに熱中しています。私も空いた時間を活用して英語多読を進めています。

このように、寮生活を送らなければ会うことがなかったであろう新たな自分に出会うことができるのも寮生活の利点だと思います。

ここ愛知の暑さは私にとっては厳しく、6月というのにその暑さに辟易としています。豊田高専に入学してから約2ヶ月、まだまだ慣れないこともたくさんありますが、学寮を自己研鑽の場として精一杯毎日を過ごしていきたいと思っています。

そしてこの豊田高専で名実共に暑い(暑い)日々を送ってみたいです。



さらなる高みへ

絵を描くことが好きだった私は、中学校の頃からずっと気になっていた美術部に入学しました。はじめは、年の離れた先輩方の存在など、中学校の部活とはまったく違う環境の部活に行くのに緊張していましたが、和気あいあいとした先輩方の雰囲気のおかげで、だんだんと居心地の良い場所へと変わっていきました。活動内容の自由度が高い美術部では、学ぶことが多く、先輩方のさまざまな画風を見て、次はあの描き方を真似してみよう、この絵の塗り方いいなあ、などという学びを発見することがあります。そして発見するたびに、その学びが自分の成長へとつながるのを実感し、絵を描くことがより楽しく感じるようになっていきます。また、自由度が高いからこそできる創作活動や、そこから生まれる新たな作品には興味を惹かれるものが多く、それらについて考えたり、見たり聞いたりすることがとても楽しいです。通学時間の

いわつき ここ 情報工学科 1年 岩附 虹心

関係上、長時間活動することは難しいですが、美術部で活動する時間はとても充実したものであり、私の高専生活の一部となっています。

これからも根気よく参加して色々な作品に触れ、挑戦していこうと思います。

今は、こうよう祭にむけて作品を制作していて、油絵の下描きをしています。油絵を描くことは特に好きなのでわくわくしていますが、まだまだ技術的に未熟な部分が多いので、その部分を美術部で補い、これまでの自分よりレベルアップした作品を作り上げていきたいと考えています。



豊田高専の部活事情

豊田高専での生活が始まり、あっという間に2ヶ月が過ぎました。寮生活にも慣れ、自立心が身についてきたような気がします。

私は5月からサッカー部に所属しています。部活動では主に審判をやっていますが、マネージャーやときにはプレイヤーとして練習に参加しています。サッカー部には植手キャプテンをはじめ、1年生から5年生まで学年・学科の異なる部員が40名程度在籍しており、一人一人の個性が強いです。部内に女子がおらず、初めは不安でしたが、同級生のマネージャーや優しい先輩方のおかげで、楽しくのびのびと練習に参加することができています。また、外部から来てくださる宮川コーチの指導もあり、練習内容は戦術面から技術面まで幅広く、自分の苦手な部分を克服したり、反対に得意な部分を伸ばしたりなど自分の可能性の幅を広げられると思います。今はもうすぐ始まる高専大会に向けて、より試合

ないとう まゆ

環境都市工学科 1年 内藤 万結

に近い形での練習が増えてきました。選手同士、切磋琢磨し合って本番に向け練習を重ねています。

豊田高専にはさまざまな部活や同好会があり、多くの人が兼部をしています。中には女子が少ない部活もありますが、男女関係なく優しい先輩方が一から丁寧に教えてくださいます。どの部活も自主性を重んじ、自分の好きなことを好きにだけやるのが出来ます。

この広報をご覧になった方に豊田高専の個性あふれる部活動について、興味を持っていただけたら嬉しく思います。



大好きな場所

入学してまだ半年も経っていませんが、私は豊田高専が大好きです。その理由の1つに、寮生活があります。

寮生活は、それまでの家での生活とは違うことが多く、最初は戸惑うことがたくさんあり、寂しく思うこともありました。そんな中、寮生活の良さが身に染みて分かったのが、友達存在です。物を無くしたら一緒に探してくれたり、夜遅くまでおしゃべりをしたり、勉強を教え合ったり…。何気ないことが全部すごく楽しくて、最初は感じていた寂しさも、友達と喋っていたらすぐに無くなりました。それに、中学生の頃は「先輩」というと「怖い」というイメージが大きかったのですが、寮の先輩は面白くて優しく年齢に関係無く仲良くしてくれるので、今では「先輩」というと、頼れるお姉さん、というようなイメージになりました。

また、寮生活の魅力は、居室での自由さにもあると思います。ベッドの上

みうら ひな

建築学科 1年 三浦 緋奈

にテントをはってその中で寝る、というすごく贅沢な事をしたり、居室を私が大好きな風船まみれにしたり、ペランダでシャボン玉をしたりして、楽しんでいます。

他にも、金曜日の夜と土日は寮食がないので自炊をしますが、友達と食材を買いに行ったり、ご飯を作ったりするのが面白くて、毎週末を楽しみにしています。

期待と不安が半分ずつの状態ですスタートした寮生活でしたが、良い友達や良い先輩に囲まれて、最高の高専生活を送っています。これからも豊田高専を大好きでいられるような、楽しい寮生活を送ってみたいです。



専攻科に進学して

本科での5年間の生活を終え、専攻科生としての新たな生活が始まって3か月が経ちました。新たな生活とは言っても、住んでいる場所や学校は変わらず今までと同じように登校し授業を受けているわけですから、環境の変化による苦労などもなく今まで通りに勉強や研究に取り組むことができています。

そんな専攻科での生活ですが、授業に関して本科と違うところがいくつかあります。1つ目は、少人数での専門授業です。専攻科というだけあって授業のレベルも上がりますが、少人数であるため教員と学生の距離が近く、詳しい内容まで意欲的に学ぶことができます。2つ目は、本科と比べてより多くの授業で発表課題が設けられていることです。資料作成から発表、それに対する質疑応答など、社会に出てから必要不可欠な能力を授業の中で学ぶことができます。もちろん発表は一人で行うもの

みす の ひろ き

情報科学専攻 1年 水野 広基

だけでなくグループでのものもありますが、特徴的なのは他学科の学生とのグループで発表する機会があるということで、本科とは違う経験を得ることができます。3つ目は、他学科や社会人とともに1つのことに取り組むという機会があることです。機械系、電気系、情報系、そして社会人が連携して取り組む「デジタル×ものづくりカレッジ」という授業があり、この授業ではそれぞれの学科ならではの発想や現場の人の目線など、本科ではなかなか学ぶことのできなかったことを体験することができます。

このように、専攻科は本科から大きく環境を変えることなく、より専門的でより貴重な経験を積むことができる場所です。2年間という短い時間ですが、多くのことを学び、成長していきたいです。





体験入学ようこそ!



学科の体験講座の様子

建築学科 准教授 たけした じゅんじ 竹下 純治

昨年度は、新型コロナ禍による影響のためオンラインで実施された中学生対象の体験入学ですが、今年度も新型コロナ禍は一向に収まる気配がなく、開催できるのか大変心配されました。しかし、8月7日(土)に素晴らしい快晴に恵まれて無事に実施することが出来ました。



検温と消毒にご協力いただきました

できるだけ沢山の中学生の皆さんに参加していただきたかったのですが、今年度は新型コロナの感染対策を徹底するために、やむなく参加人数を制限して実施することになりました。例年に比べ実施教室ごとの参加人数を少なくし、午前との部と午後との部の2部に分けて、参加者には2講座ずつ受講していただく形式で実施しました。

受講希望者には事前に本校Webページから申し込みをもらい、抽選により参加の可否と受講講座を決定しました。最終的に午前289名と午後295名、合計584名の中学生の皆さんに参加していただきました。

実施した講座は全部で10種類でした。本校と入試の概略に

ついて知っていただくための学校説明講座と、数学、理科、英語などの一般科目の体験講座。そして、女子の在校生や卒業生に高専生活の体験を語っていただく高専女子講座と、専門学科の5学科による体験講座です。それぞれの実施教室で学科説明や授業体験、施設見学等が行われ、生き生きとした表情で受講している中学生の皆さんの姿が大変印象的でした。きっと「豊田高専に入学して学びたい!」という思いを強くしてくれたのではないかと思います。また、図書館で実施した個別相談コーナーでは、大変多くの保護者の皆さんからの相談を受けました。

参加していただいた中学生の皆さんにはアンケートを書いていただきました。現在アンケート結果の集計と分析を行なっている所ですが、多くの生徒さんにより一層興味を持っていただけの機会になったのではないかと思います。

体験入学の実施にあたっては、講座手伝いや運営手伝い学生の皆さんにお手伝いいただきました。猛暑日ともいえる、うだるような暑さの中、マスク着用等の感染対策をしていただき本当に大変だったと思いますが、皆さん大変元気に明るく対応をしていただきました。心から感謝いたします。また総出で運営にあたっていただきました職員の皆さんや、各講座を実施していただきました教職員の皆さんに、心よりお礼を申し上げます。



保護者の方との個別相談会



保護者控室の様子



理科体験講座の様子



学校説明講座、みんな真剣に聴いてくれました!

案内学生が会場へ案内してくれました!

公開講座

女子中学生のための女子学生による講座 —オリジナルマグネットの製作—



開講式

令和3年8月6日(金)午前と午後の2部制で、公開講座「女子中学生のための女子学生による講座(オリジナルマグネットの製作)」を開催しました。

この講座は、H25年度から実施しているもので、受講生を女子中学生のみとし、講師も本校機械工学科女子学生とする、とてもユニークな講座です。女子中学生にわかりやすくものづくりの楽しさを体感してもらえるように、本年度の講座は、鑄造のマグネットを製作してもらいました。講座内容はすべて女子学生のアイデアと手作りで行われ、フライス加工の見学を含めて、材料や工作機械に興味をもってもらえる内容にしています。コロナウィルス感染症が拡大していることもありましたが、受講生午前8名、午後10名の応募のもと、女子中学生が仲良くものづくり体験ができ、無事に終了することができました。

受講生は好みの鑄型を選び、砂型を造り、鑄込み、表面仕上げを行っ



型選び



鑄型作り

てオリジナルマグネットを製作しました。また、空き時間を利用して、フライス盤による金属加工を見学しました。製作中は、講師学生と学校生活や進路について会話が弾みました。

本講座は、受講生を女子中学生、講師を本校機械工学科女子学生と限定しています。男子ばかりの高専というイメージではなく、女性も技術者になるために勉強し、社会で活躍できることが身近に感じて貰える講座になったと思います。また、本校女子学生にとっても講座の企画と運営を自分たちで行うことで、いろんな勉強ができたと思います。今後も同様の講座を引き続き開催する予定です。本講座は、豊田市、日本鑄造工学会東海支部のご後援、永井財団からご支援を頂いて実施しました。御礼を申し上げます。



鑄込み



フライス盤加工の見学



仕上げ

機械工学科 教授 かねしげ あきひろ 兼重 明宏

建築士の仕事をレゴで体験

2021年8月6日(金)に豊田高専の建築学科造形デザイン室で、建築学科の教職員と学生による公開講座「レゴで体験!建築模型とまちづくり講座」が開催されました。本講座は小・中学生を対象とした講座で、90名以上の応募があるなか、抽選で12名が受講することになりました。本講座ではレゴアーキテクチャーを使用して建築模型やまちづくり体験を行い、建築士がホワイト模型を使って建物やまちを作る過程や、ものづくりの楽しさを学んでいただきました。

開講式とガイダンスの後、受講生たちはレゴで作る場合の建物づくりとまちづくりのポイントについて説明を受け、その後2名のチームにわかれて作製に取りかかりました。各チームにはアドバイザーとして本校建築学科4年生～専攻科2年生の学生がつかまりました。用意されたブ

建築学科 准教授 もりかみ しんや 森上 伸也



6チームのまちを合体

ロックはすべて白色のため、形のインパクトが重要です。また、まちの課題には地区を分断する大きな川が存在があり、それらをどうやって解決するか重要なポイントです。あるチームは川で分断された両方のまちを盛り上げるために大きなお城をモチーフにした可愛いまちを作り、他のチームはスタジアムなどの運動施設が集まったスポーツシティを作っていました。苦戦するチームもありましたが、最終的には全てのチームが素敵なまちを完成させることができました。講座の最後には各チームで作った地区を並べて大きな都市を作り、記念撮影を行いました。受講生たちは建築模型の作製やまちづくりを通じて、建築や都市計画への興味を持ったようでした。



お城のあるまち

新任教職員紹介

「わかった」という感覚を大切に

一般学科 教授 さかきばら かずひこ
榊原 和彦

令和3年度4月より、一般学科に着任しました榊原和彦です。出身は、常滑市ですが、大学入学以来37年間を県外で過ごしました。久しぶりの故郷での生活ですが、歳のせいか、変化への期待よりは、ノスタルジーを感じる人が多いようです。

昨年度までは、奈良高専で教壇に立っていました。なんとなく予想していましたが、豊田高専の皆さんも高専生として（人の良さとか）多くの点でよく似通っており、困ったことがあると、優しく教えてくれたりして、支えてもらっていると感じる事が度々あります。

担当教科は、応用物理で好き嫌いはいずれも、専門科目の基礎として重要な科目です。特に単純な自然現象を線形代数や微積分を含む数学で記述することで、理系の基礎体力を付けてもらいたいと思います。

基礎体力をつけるのは、なかなか面白味を感じられないことが多いのですが、原理原則から、1、2年で習った公式を導出する流れを中心に、高学年として多面的な見方が加わることで（要は、今までの学習の蓄積から）もう一歩先、もう一歩深く「わかった」と思う喜びを糧に勉強を進めてくれたら嬉しく思います。



高専生のチームワーク

一般学科 講師 やまだ けいた
山田 慶太

4月より、一般学科に着任しました山田慶太です。20年以上中学校で勤務していましたが、これまでの経験を活かしながら、新たな環境で英語教育に携わりたいと考え、本年度より豊田高専でお世話になることになりました。数か月の授業を終えて、高専生の学習に対する前向きな姿勢もさることながら、日常のあいさつや言葉遣いなど、数年で社会人になる者としての意識の高さが垣間見られ、大変感じています。

高専と中学校との違いはたくさんありますが、印象的なのは、ク

ラスのチームワークの良さです。中学ほどクラス対抗の行事などがあるわけではないので、ひょっとしたら授業と一緒に受けるだけの関係なのかなと思っていました。でも実際は、授業の内外で楽しそうに話していたり、支え合ったりして、中学とは一味違った、成熟したチームワークの良さが感じられました。寮での生活を始め、共に過ごす時間の長さによるものかと思います。でも、きっとそんな仲間と過ごす時間は、思ったよりあっという間に過ぎてしまうのではないかと思います。授業、研究、行事、そして何気ない語らいの時間をどうぞ大切にしてください。それが社会に出てからもみなさんを支える強い絆になることを願っています。ともに頑張りましょう。



Nice to meet you!

一般学科 助教 てらしま ひろき
寺嶋 宏樹

民間企業、高等学校、中学校での勤務を経て、今年度より着任しました英語担当の寺嶋宏樹です。本校は、「高度な学術・技術を学び、世界に通用するグローバルな実践的技術者」の育成を目指しています。その言葉通り、英語に対する興味・関心の高い学生が非常に多く、講義中も英語での議論が活発に飛び交っており、英語多読をはじめ、英語プレゼンテーションやディベートなど、難易度の高いアクティビティにもどんどん挑戦しています。さらに、長期の海外留学への参加、ビデオコンテストによる外国人との異文化

理解活動にも取り組むなど、国際交流も盛んに行われています。この恵まれた環境で皆さんと共に学ぶことを大変嬉しく思います。

英語は非常に論理的な言語であり、独特の英語的視点が必要です。英語を学ぶことで、今までの常識とは異なる視点や観点で物事を考えることが身につきます。英語を話しているときに普段の自分自身とは違う、新しい自分に出会えることだってあります。日本人にとって当たり前のことでも外国では非常識だったり理解し難かったりします。多角的な視点から物事を見られるようになることで、自分自身の視野が格段と広がります。これからも共に英語の魅力を再発見していきましょう。



古典を通して人と人とのつながりを感じたい

一般学科 助教 ひぐち ちひろ
樋口 千紘

令和3年度4月より、一般学科に着任しました樋口千紘と申します。出身は、三重県四日市市です。四日市市は万古焼という焼き物の産地で、陶芸教室に通って創作活動をしていたこともあります。名古屋にある大学に通い、またこれまで教壇に立った高校や大学、専門学校も実家から通える範囲でしたので、この4月にはじめて愛知県に引っ越してきました。高専に勤めるのもまた初めてのことで、皆さんに教えてもらいながら、精一杯頑張りたいと思っています。

担当教科は、国語です。言語活動は、自分自身の意見や思いを表

現する上で欠かせないものであり、私たちにとって必要なコミュニケーションのツールですが、それは同時代に限ったものではありません。古典作品を読むことは、違う時代を生きた人々とのコミュニケーションがとれる機会であり、また思いを共有できるものです。数百年以上離れた時代に書かれたものであっても、共感できることがたくさんあります。その一方で、理解しがたいこともあるでしょう。自分の考えや気持ちと照らし合わせながら、人々が書き残した文章を通して、人と人がつながる体験ができればと思っています。いまを生きる私たちが、先人とのつながりを感じながら、また私たちがつながった時間を大切にして、その楽しさ、面白さを共有していきたいと思っています。よろしくお願ひします。



高専ロボコンの選手→審判→教員

機械工学科 講師 さこう ゆきのり
佐郷 幸法

2021年4月に着任しました佐郷幸法です。大分高専の電気電子工学科を卒業して豊橋技術科学大学の生産システム工学課程に3年次編入学し、豊橋技術科学大学大学院の機械工学専攻で博士（工学）を取得しました。その後、民間企業で6年間ものづくり（操作インタフェース、パワーアシスト台車、移動ロボット、など）の仕事に励んでいましたが、縁あって本校の機械工学科の教員となりました。

私が高専を知ったきっかけは小学生の頃にテレビで見たロボットコンテストです。父親から高専でロボコンができてと聞いて高専を目指し、願いが叶って大分高専で高専ロボコンに参加することがで

きました。豊橋技術科学大学でも大学ロボコン（現在の学生ロボコン）に参加し、大学院からは高専ロボコンの地区大会や全国大会、学生ロボコン、ABUロボコンの審判としてロボコンに関わってきました（顔写真はABUロボコン2019モンゴル大会で副審を担当したときに撮影）。

高専教員を目指したきっかけは大分高専在学時に「いつかはロボコン指導をしたい」と恩師に相談したことです。様々なアドバイスをいただき、博士号の取得と民間企業での実務経験が重要だと考えました。おかげさまでどちらも得ることができ、これまでの研究と実務、ロボコンの経験を生かしたものづくり教育を実践できるよう、高専教員として職務を全うすべく日々鋭意努力して参る所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



京都から豊田の地へ

電気・電子システム工学科 助教 **小松 弘和**

2021年4月に電気・電子システム工学科に着任しました小松弘和と申します。出身は広島県で、2019年に博士(工学)の学位を取得するまでの27年間をそこで過ごしました。その後、京都大学ウイルス・再生医科学研究所でポスドクとして2年間ほど研究(医学的なことは一切していない)に従事しました。

学生時代に、工学の魅力や研究への熱意を惜みなく教えて下さった恩師や教員がいたからこそ、研究者としての今の自分があると思っています。このようなことから、研究活動だけでなく、工学の魅力を学生に伝えていき、将来の科学技術を担う研究者や技術者を育成する教育活動にも私自身携わっていきたくと考

えていました。そのため、豊田高専の教員として学生の教育活動に携わる機会をこの度いただき大変嬉しく思います。

研究分野は応用数学です。特に、化学反応系の動的現象を記述した常微分方程式や遅れ型微分方程式の数理モデルを対象とし、数学や制御工学の知見を応用することで、現象の解明や制御の実現を私は目指しています。これまで数理解析的な研究が主でしたが、豊田高専へ着任したこの機会に、以前から念頭にありました工学分野の研究にも応用数学の観点から取り組んでいきたいと考えています。

これまで研究にのみ従事してきたため、右も左もわからないことだらけですが、豊田高専の学生とともに学び、人間性を成長していければと考えています。今後ともよろしくお願ひいたします。



新鮮な日々

総務課長 **二村 直樹**

令和3年4月1日付けで、名古屋大学から総務課長に着任いたしました二村と申します。根っからの名古屋人です。前職では、主に総務・人事系の業務をしておりました。趣味は、若いときはドライブ、キャンプ、スキーでしたが、最近、体に優しい新たな趣味をもちたく、一眼レフカメラを購入いたしました。ただ、使用法は、まったく理解できておりません。

異動前の高専の知識は、中学校を卒業した方が入学し5年一貫の教育である。就職希望者の就職率が高い。高専ロボコン。高

等教育機関であること程度のものでした。着任後に、中期目標・中期計画の期間、予算の仕組みなども大学法人と異なることを知りました。また、校内では、学生さんが元気に挨拶をしてくれます。日々新鮮に感じる毎日で、少しでも早く業務を理解し、馴染み、豊田高専の発展のため、日々努めてまいりたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症の影響で、学生さんにとっては色々な活動が制限される中の学生生活、また、教員の方には、教育、課外活動、学校行事等の激務の中でのコロナ対応など、ご不便・ご苦勞をおかけしておりますが、しっかりサポートしていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。



心機一転、頑張ります

総務課人事労務係主任 **早川 浩平**

この度、令和3年7月1日付けで名古屋大学から異動して参りました早川と申します。名古屋大学では5年3か月の間、ずっと教務系の業務を行っておりましたが、今回初めて本校の総務課人事労務係にて人事系の業務に従事させていただくこととなりました。今回の人事異動を初めて知ったときには、今までとは全く異なる環境で仕事をすることになるので正直不安もありましたが、勤務初日から学生や教職員の皆様から明るく挨拶をしていただき、受け入れていただけたのだとほっとしたことを覚えています。そして実際に働いてみたところ、やはり新しく覚えることもたくさんあ

て毎日が慌ただしく過ぎておりますが、教職員の皆様の温かい人柄に救われることばかりで、動きやすい環境であると感じています。また、本校は自然豊かな場所に立地しているのので、駅から徒歩25分、毎日良い運動になっております。

私は学生時代には工学を学び、名古屋大学でも工学部の教務課に所属しておりましたので、工学分野には親しみがあります。人事という職務上、教育現場や学生生活に直接関わることは少ないかもしれませんが、少しでも本校のお役に立つことができれば幸いです。さらに、本職を全うするうえでは自身のスキルアップにも繋げたいと考えており、心機一転、頑張りたいと思っております。これからどうぞよろしくお願ひいたします。



長野から来ました! 豊田でもがんばります!

総務課調達係 **高橋 勇氣**

令和3年4月1日に長野高専から豊田高専へ異動してきました。出身が北海道で、東京の大学を卒業し、長野で就職して、豊田へ引っ越してきました。愛知県には、祖母を含め多くの親戚が住んでおりますので、10年以上前はよく遊びに来ていました。子供の頃は、虫取りやザリガニを捕まえたりして遊んでいました。長野でも山登りをしていましたので、自然豊かなこの街は素晴らしい街だと思います。長野もいいところなので、皆さん是非来てください。おみやげは七味唐辛子とおやきがおススメです。

長野はそれなりに涼しいところでしたが、豊田はとても暑いです

ね。これを書いているのが6月上旬なのですが、汗を流しながら書いております。皆さんも無理せずお身体に気を付けて頑張ってください。私も今後仕事をしていく上で徐々にこの暑さも慣れていきたいと思っております。

異動の際に、長野の同僚からは豊田高専の学生は優秀な学生がたくさんいると聞いていましたので、皆さんとお会いできることを楽しみにしていました。現在は総務課調達係にいるため、学生の皆さんとお話しできる機会は少ないですが、学校の行事などで一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

まだ豊田に来て時間は浅いですが、豊田のことが高専含めて好きになってきました。お役に立てるよう頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



楽しみながら、頑張ります!

学生課寮務係 **加藤 彩花**

令和3年4月から学生課寮務係員として働くことになりました加藤彩花と申します。

3月までは大学に通ってました。初めての仕事ということで、当初はとても緊張しておりましたが、周りの方々に支えられ、現在は少しだけ寮務係員として成長できたかなと思っております。概ね半年を職員として働く中で、学生時代には見えていなかった学校の側面について知り、学ぶことがたくさんあることを日々実感しております。それと同時に、次はどんな発見があるのだろうかとか

すごく楽しみながら仕事をしています。

少しの期間ですが、豊田高専の皆さんとかかわってきた中で、豊田高専生は楽しむことがとても上手だなと感じました。特に今年は様々な制限のある中で、寮祭などのイベントに全力で取り組み、成功まで導く姿勢はとても輝いており、私も見習っていきたくと思いました。そして学生の皆さんの学校生活がより一層楽しいものとなるようサポートしていくために、これから様々な知識・経験を積み重ねていきたいと思っております。

まだまだ未熟な部分も多く、皆様にご迷惑をお掛けすることもありますが、精一杯頑張りますので、よろしくお願ひいたします。



学生サポート室から愛をこめて

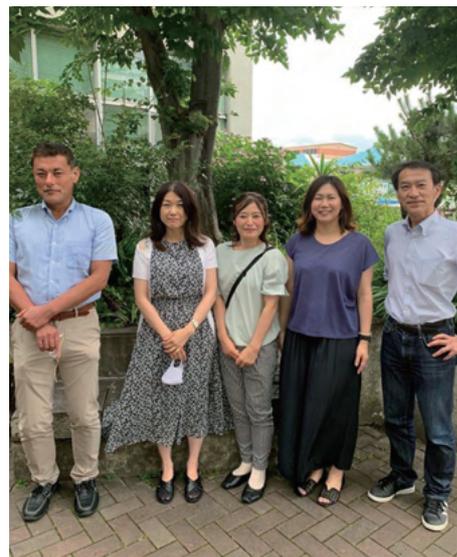
学生サポート室長 一般学科 教授 ^{えもと たかし} **榎本 貴志** (写真の右から1人目)

皆さん、こんにちは。2020年1月から始まった新型コロナウイルス感染症の世界的拡大からもう1年半が経とうとしています。マスクを着けての外出や、アルコールスタンドでの手指消毒にもすっかり慣れてしまいましたね。

コロナ前には開放的だった保健室ですが、コロナ禍の下においては制限を設け、運営せざるを得ない状況です。入室前には保健室のインターホンを鳴らして事情を説明し、入室直後の非接触体温モニターで体温を確認、怪我の場合は処置が終わり次第即退出、体調不良での休養が必要な場合は福利厚生会館2階の会議室や和室にて静養といった感じです。

今回の広報では、そんなコロナ禍においても皆さんの学生生活を健康面・心理面で支えてくださっている保健室の看護師さん、学生相談室の相談員さんを紹介したいと思います。また、保健室や学生相談室としての活動や目標についても紹介します。

学生や保護者の皆さんに、看護師さんや学生相談員さんの人となりや支援内容を知ってもらった上で、気軽に保健室・学生相談室を利用してもらえると嬉しいです。



保健室スタッフ全員集合!

看護師 ^{きのもと なみ} **木之本 奈美** (写真の右から2人目)

保健室での勤務は6年目となります。それまで病院の外科病棟で術後の患者さんの看護やがん患者さんの緩和ケアを中心に看護をしてきました。保健室ではケガの処置だけでなく、学生さんの悩みを聞いたり、一緒に考えたりしていますので気軽に相談してくださいね。

音楽を聴いたり、何かを作ったり、一人で集中して楽しむ時間は大切です。私は6年前に、小学校まで習っていたピアノを再び習い始め、時間のある時にピアノを弾いて楽しんでいます。心がモヤモヤしたりした時にピアノを弾くと気持ちがスッキリしたり、集中する時間がストレスの発散になります。最近は「動画作り」にも興味があります。今後は「動画作り」を通して、皆さんに楽しく「健康情報」を発信していけたらと思っています。

看護師 ^{やまだ さちこ} **山田 幸子** (写真の右から3人目)

看護師として15年ほど、豊田や岡崎の総合病院の病棟で勤務してきました。看護の中で苦痛を取り除く方法として、投薬や処置・声かけなどが挙げられますが、アロマセラピーという方法もあります。私はその免許を取得し、香りで症状(心、女性特有の症状)の緩和を行うことができます。クラフト工作(ハンドクリーム、バスボムなどの精油を利用した工作)や芳香浴にも興味があります。機会があれば、花のアレンジメントの作成や鑑賞を一緒にいかがでしょうか。



学生相談員 ^{いとう たかあき} **伊藤 卓秋** (写真の左から1人目)

主に月曜日から木曜日の11時～17時で勤務しています。私は心理的サポートをさせていただく姿勢として次の5点を心がけています:

- ① 気長に(焦ることなくマイペースで進むことを促す)
- ② 徐々に(小刻みに目標・課題を設定する)
- ③ 柔軟に(個々人にあった方法やあり方を提示する)
- ④ 丁寧に(その方の変化をきめ細やかに観察する)
- ⑤ 前向きに(諦めずに色々な方法を模索する)

個々の方の長所や強みを引き出すことにより、問題や悩みが改善できるよう支援させていただきたいと考えています。

学生相談員 ^{つづき ゆきこ} **都築 有紀子** (写真の左から2人目)

主に金曜日の11時～17時で勤務しています。他の曜日は小学校でカウンセラーをしています。大学卒業後に法律系出版社に勤めた後、心理系大学院に入学しました。大学院修了後は心療内科の病院・福祉施設・企業・大学などでカウンセラーを経験してきました。

カウンセリングの方法として、言葉を使わない手法もありますので、話すのが苦手な人も気軽に来室してください。お子様との接し方などで悩まれている保護者の方も、遠慮されずに来室いただければと思います。

趣味は、旅行に行くこと・花を見に行くこと・映画やドラマを見ることです。20代の頃には、スキーやテニス、コンサートに行くことが好きでした。

保健室の活動を紹介します！

健康相談

保健室では随時、健康相談を受け付けています。自分の身体について不安なことがあれば、看護師まで相談してください。

性教育

第1学年を対象に、産婦人科医の先生による性教育講演会を実施しています。SNSでは様々な情報が氾濫し、間違った知識に出くわすこともあります。この講演会を通して、性に関する正しい知識を身に着け、自分自身を守り、また相手との関係性を大切にすることを育んで欲しいと思います。

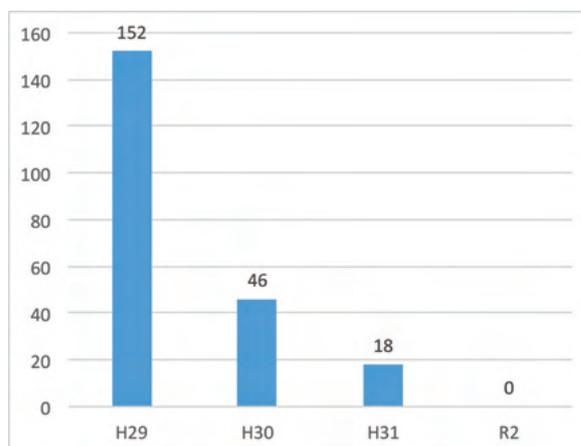
寮生の健康教育

平成30年度から、寮の指導学生の皆さんと共に学寮アセンブリにおいて「睡眠・食事・風邪予防」等の健康教育活動を行なっています。学生さんが作成した動画は「楽しく興味を持てる」ように工夫されており、健康情報を伝える有効な機会となっていると確信しています。その成果として、平成30年から令和2年にかけてインフルエンザによって「特別欠席願」を提出する学生数が減少しました。右のグラフに示した通り、平成29年度ではインフルエンザによる特別欠席願が152枚提出されましたが、平成30年度以降ではその数が3分の1以下に減少していることがわかります。今年度は7月の学寮ア

センブリにおいて「新型コロナウイルス感染症の予防」に関する動画を発表したところです。

また今年度からの新しい試みとして、看護師と寮母の3名による「食べることの大切さ」に関する動画を作成し、学寮アセンブリにて発表しました。

今後も学生さんと協力して、寮における健康教育を継続していきたいと思っています。



本校におけるインフルエンザが原因で教務係に提出された特別欠席願の枚数の経年変化(平成29年度～令和2年度)

学生相談室の活動を紹介します！

学生相談・カウンセリング

学生や保護者の方からの相談を受け付けています。面談予約は保健室で直接取ることもできますし、次のメールアドレスまで申し込むこともできます：

soudan@toyota-ct.ac.jp

対面しての面談が苦手という方に向けて、メール相談(メールを利用しての相談)の受付も始めました!希望される方は上記メールアドレスまでその旨を連絡してください(教室の掲示物も参照のこと)。

心理リラクゼーション・自律訓練法

悩みを抱えた方は自分でも知らないうちに筋肉が緊張し、それによって二次的な身体的不調(頭痛・肩こり・不眠・吐き気)を引き起こしている場合があります。そのような方には、心身の緊張緩和・解消を目的として支援を行うこともできます。また、自己暗示によって緊張や不安を緩和する自律訓練法を体験することもできます。

心理教育

学生相談員が学年集会やクラスのホームルームに入り、心理教育を行っています。コミュニケーションの取り方、気持ちを安定させるための考え方など、今後の人生において大切な技術・思考の方法を伝えています。

グループ活動

情報交換や創作活動をテーマとした学生間の交流活動として、グループ活動を行なっています。放課後に、学生相談室へ集まり、少数名の学生に学生相談員や看護師も加わり、おしゃべりやワークを行って交流を深めます。最近ではコラージュ体験など行いました。活動予告は、保健室前や福利厚生会館の掲示板に掲示しますので、興味のある方はご参加ください。



1年生対象の心理教育の様子(6月30日遠隔で実施)

Calendar

4 APRIL 2021

- 4月 5日 入学式
- 4月 7日 前学期授業開始
- 4月 14日 新入生歓迎会
- 4月 14日 学寮防災避難訓練
- 4月 20日 開校記念日(授業日)
- 4月 28日 学生総会



入学式



入学式

5 MAY 2021

- 5月 16日 自動車等使用実技研修会



新入生歓迎会



新入寮生オリエンテーション

6 JUN 2021

- 6月4日~8日 本科前学期中間試験
- 6月 16日 安全を誓う日・東海地区高専大会壮行会



学寮防災避難訓練



学寮防災避難訓練

7 JULY 2021

- 7月 1日 栄志寮改築に係る解体工事完了
- 7月28日~8月4日 本科前学期定期試験



学生総会



安全を誓う日、壮行会

8 AUGUST 2021

- 8月6日~9月22日 本科夏季休業
- 8月 4日 閉寮
- 8月 7日 体験入学
- 8月10日~13日 一斉休業
- 8月10日~9月30日 専攻科夏季休業
- 8月 24日 令和4年度編入学試験



自動車等使用実技研修会



自動車等使用実技研修会

9 SEPTEMBER 2021

- 9月 6日 輝志寮(新営)竣工式
- 9月 23日 開寮
- 9月 24日 本科授業再開



体験入学



栄志寮改築のため解体中

10 OCTOBER 2021

- 10月 1日 専攻科授業再開
- 10月 6日 避難訓練
- 10月9日~10月10日 オープンキャンパス
- 10月 9日 全国高専プログラミングコンテスト
- 10月 24日 ロボットコンテスト地区大会(オンライン)



輝志寮竣工式



輝志寮



輝志寮



輝志寮